

令和3年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

兵庫県教育委員会

目 次

I	令和3年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況の まとめ		
1	参加生徒数等について	・・・	1
2	公立中学校、県立中等教育学校及び県立大学附属中学校の 活動について	・・・	2
3	市立特別支援学校の活動について	・・・	6
II	地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況について	・・・	7
[資料1]	令和3年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施 後アンケート調査の結果	・・・	8
[資料2]	令和3年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会 について	・・・	15

I 令和3年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

(義務教育学校〔後期課程〕は公立中学校に含む)

1 参加生徒数等について

(1) 実施校は、356校

(全公立中学校338校、県立中等教育学校1校、県立大学附属中学校1校、市立特別支援学校16校)

A〔通常の事業所において活動をした学校〕：79校(22.2%) (内数：市立特別支援学校4校)

A'〔通常の事業所と代替活動を併用した学校〕：64校(18.0%) (内数：市立特別支援学校5校)

B〔コロナ禍における代替活動をした学校〕：213校(59.8%) (内数：市立特別支援学校7校)

(2) 実施期間は、令和3年4月27日～令和4年3月24日 (2学期実施：80.5%)

(3) 参加生徒数は、42,576名 (内数：特別支援学級898名、市立特別支援学校158名)

(4) 班数は、10,178班で1班につき生徒平均4.2名 ※24年間：1,163,666名

(内数：特別支援学校46班で1班について生徒平均3.4名)

A〔事業所等での活動のみ〕：2,449班で1班につき生徒平均3.0名

(5) 活動場所数は、6,051カ所で1カ所につき生徒平均7.0名

(内数：特別支援学校74カ所で1カ所について生徒平均2.1名)

A〔事業所等での活動のみ〕：2,310カ所で1カ所につき生徒平均3.1名

(6) 指導ボランティアの数は、11,253名でボランティア1名につき生徒平均3.8名

(内数：特別支援学校159名で1名について生徒平均1.0名)

A〔事業所等での活動のみ〕：3,853名でボランティア1名につき生徒平均1.9名

(7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、25名

年度	実施校数		2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
			学級数	生徒数			
R3	全体	356	1,295	42,576	10,178	6,051	11,253
	事業所等	(79)	(156)	(7,252)	(2,449)	(2,310)	(3,853)
R2		360	1,309	41,893	4,478	1,783	4,489
2019(R1)		359	1,269	42,346	16,866	16,741	22,352
H30		359	1,329	43,614	16,827	17,180	24,282
H29		360	1,345	44,922	16,872	16,969	22,657
H28		359	1,447	46,502	17,360	17,379	22,901
H27		362	1,418	47,523	17,657	17,557	22,531
H26		362	1,409	48,045	18,040	17,373	22,577

年度	班編制	活動場所	指導ボランティア
R3	全体	1班：4.2名	7.0名につき1カ所
	事業所等	1班：3.0名	3.1名につき1カ所
R2		1班：9.4名	23.5名につき1カ所
2019(R1)		1班：2.5名	2.5名につき1カ所
H30		1班：2.6名	2.5名につき1カ所
H29		1班：2.7名	2.6名につき1カ所
H28		1班：2.7名	2.7名につき1カ所
H27		1班：2.7名	2.7名につき1カ所
H26		1班：2.7名	2.8名につき1カ所

2 公立中学校、県立中等教育学校及び県立大学附属中学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

	R3 ^{※1}				R2	2019(R1)	H30	H29	H28	H27
	全体	通常	併用	代替						
① 職場体験活動	31.6%	82.9%	33.3%	28.0%	25.0%	82.3%	82.9%	83.1%	82.8%	82.5%
② 文化・芸術創作体験活動 ^{※2}	16.9%	4.4%	9.1%	18.6%	15.8%	3.5%	3.9%	3.7%	3.9%	4.0%
③ ボランティア・福祉体験活動	13.8%	5.9%	11.3%	14.6%	46.1%	9.9%	9.0%	8.7%	8.9%	9.3%
④ 農林水産体験活動	3.5%	3.1%	3.1%	3.6%	3.4%	2.1%	2.2%	2.3%	2.3%	2.4%
⑤ その他 ^{※3}	34.2%	3.7%	43.2%	35.2%	9.7%	2.2%	2.0%	2.3%	2.1%	1.8%

※1 通常：例年と同様に事業所において活動した生徒の割合 併用：事業所での活動と代替活動を併用した生徒の割合
代替：コロナ禍における代替活動した生徒の割合

※2 ②「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

※3 ⑤「その他」には、学校や地域等での地域貢献活動や「国際理解、科学技術、環境、情報」が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

	R3 ^{※1}				R2	2019(R1)	H30	H29	H28	H27
	全体	通常	併用	代替						
① 文化・芸術創作活動 ^{※2}	16.9%	4.4%	9.1%	18.6%	15.8%	3.5%	3.9%	3.7%	3.9%	4.0%
② 役所・消防署等	5.1%	9.7%	3.4%	5.0%	2.7%	8.3%	8.1%	8.5%	7.8%	7.7%
③ 幼児教育	4.0%	19.6%	7.9%	2.6%	1.3%	20.2%	20.9%	20.8%	20.9%	20.8%
④ 製造・建築	3.7%	7.2%	2.4%	3.6%	0.8%	4.0%	4.2%	4.3%	4.5%	4.7%
⑤ 販売	3.5%	14.0%	5.1%	2.6%	1.1%	16.9%	17.5%	17.7%	17.9%	17.6%
⑥ 小学校・高校・大学	2.9%	11.4%	3.9%	2.2%	1.9%	6.9%	6.9%	6.7%	6.1%	5.9%
⑦ 社会福祉施設	2.1%	5.1%	1.9%	2.0%	0.8%	9.2%	8.4%	8.0%	8.0%	8.0%
⑧ スポーツ体育施設	1.5%	3.1%	3.3%	1.2%	0.8%	3.7%	3.4%	3.4%	3.5%	3.6%
⑨ 理容美容	1.2%	1.5%	0.5%	1.3%	0.2%	1.7%	1.8%	1.9%	2.0%	1.9%
⑩ その他職業 ^{※4}	4.8%	1.5%	1.6%	5.4%	14.3%	-	-	-	-	-

※4 主に令和3年度コロナ禍における代替措置として、職場へのインタビュー・見学や地域で職業人を招いた体験・講話等

ウ 本年度の特色ある取組

① 例年と同様に事業所において活動した取組

<p><地域の特色を生かした体験></p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内のヨットの清掃 公園の管理補助、花植え替え カヌーに乗って海洋のゴミ回収作業 古墳の調査・発掘作業 施設及び自然の魅力や特徴を来館者へのガイド 施設内のアスレチックの点検・清掃 里山や登山道の整備 <p><地場産業等での体験></p> <ul style="list-style-type: none"> のりの養殖及び海岸の清掃作業 特産の農産物の販売 アイスクリームの製造・販売 そろばん製造工場での作業 	<ul style="list-style-type: none"> 牧場で牛の飼育、毛刈り作業 ゴルフクラブグリップ交換・磨き作業 温泉施設での清掃・接客・販売 道の駅での特産物のポップ作成 酒造会社での仕込み作業 農園での果実の収穫 漁港での競り市の補助 機械工場での装置組み立て補助 <p><福祉体験活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者と一緒にお弁当の作成 高齢者宅にお弁当の配達 作業所での障害者との軽作業や交流 介護施設利用者とのレクリエーション 	<p><その他特徴的な体験></p> <ul style="list-style-type: none"> 職業に関するインタビュー活動 お寺で座禅、写経、読経、清掃 外国の方との交流 消防署での訓練 ケーブルテレビ局での放送活動 小学校の学習及び生活支援 店舗内外の清掃、接客対応、商品補充 地域の生き物観察 地域の魅力の広報活動 ラジオ局でのCM制作、生放送 科学探究員との模擬研究活動
---	--	--

② コロナ禍における代替活動の取組

<p><地域活性化に向けた活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の店舗を紹介するポスターの作成 ・地域イベントにおけるペットボトルを使ったイルミネーション作り ・校区内の「好きな場所」「自慢できる場所」をタブレットで撮影し、スライドを作成して生徒間で紹介する。その後、地域の方にも評価をもらい、ポスターにまとめ、地域の魅力を伝える ・依頼のあった企業のイメージキャラクターを考案したり、該当商品のポップを作成したりして提供する ・図書館の本などを紹介するポップ作り <p><将来について考えを深める活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から挨拶や電話のかけ方等について学び、事業所へ電話をかけ、仕事内容や仕事に関する疑問等をインタビューし、生徒自身のキャリア形成に生かす <p><地域の伝統や文化に関する活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産物の収穫作業 ・和菓子作りを学び、粘土でデザインを考案して後日、優秀作品を製造・販売 	<p><美化、環境整備活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合と連携し、里山整備活動 ・観光協会と連携した海岸での清掃活動 ・公園、保育施設での花壇の整備と花の植え <p><生徒が地域に貢献する活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで地域の事業所から出された課題に対して、生徒が解決方法を考えて提案 ・地域のニーズを調査し、「安全ぼうや」、「消毒薬スタンド」、「アドベントカレンダー」等を製作し、商業施設や市役所、保育園等に設置 ・玩具製作について聞き取ったことを基に玩具を製作し、園児に玩具を贈る ・園児に向けて、読み聞かせや演じた劇の動画を作成し、メッセージカードとともにこども園に贈る ・健康体操や楽器演奏動画を作成し、メッセージカードとともに高齢者福祉施設へ贈る ・区役所と連携した地域広報のプロモーションビデオ制作 ・防災について学んだことを生かし、地域の防災マップを作成
---	---

(2) 生徒の希望達成度（例年と同様に事業所において活動した生徒の割合）

- ・第一希望が叶えられた生徒は、67.1%である。

活動内容	R3	R2	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
・第一希望が叶えられた生徒	67.1%	65.2%	70.7%	69.9%	69.4%	70.2%	68.4%	68.1%	69.1%	70.0%	70.9%
・第二希望が叶えられた生徒	16.7%	14.4%	16.3%	16.2%	16.7%	17.4%	17.1%	18.9%	17.6%	17.1%	16.5%
・第三希望が叶えられた生徒	7.7%	5.6%	6.4%	6.1%	7.0%	5.9%	6.4%	7.1%	7.4%	6.8%	6.6%
・その他	8.5%	14.8%	6.6%	7.8%	6.8%	6.5%	8.1%	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応（複数回答）（例年と同様に事業所において活動した学校における割合）

- ・活動の意義の話 ……65.7%
- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……61.2%
- ・時間をかけて話し合った ……47.8%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について（例年と同様に事業所において活動した学校における割合）

- ・新規の活動場所の割合（数） …… 15.7%（360カ所）
- ・校区外の活動場所の割合（数） …… 32.6%（749カ所）

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数…7.6時間（R2年度5.5時間）

イ 主な事前指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

	R3	R2
・趣旨及び活動説明会	90.0%	83.3%
・マナー指導等	68.8%	50.3%
・希望調査	64.4%	51.8%

	R 3	R 2
・受入先の紹介等	61.5%	50.0%
・ボランティア等との打ち合わせ	55.3%	40.6%
・出発式	48.2%	39.8%
・受入先への訪問	47.4%	22.5%
・キャリアート等による目標設定	47.1%	37.4%
・他学年、地域等への啓発活動	46.5%	31.0%
・名刺作り等	43.2%	19.3%
・福祉学習	25.0%	22.5%

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数・・・5.0時間（R 2年度3.2時間）

イ 主な事後指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

	R 3	R 2
・礼状作成等	62.6%	40.4%
・発展学習*	57.4%	45.3%
・感想文集作成等	56.2%	45.3%
・キャリアートによる振り返り	52.6%	41.2%
・実践発表会	48.8%	27.8%
・広報活動	40.6%	31.9%
・「トライやる」アクション	26.2%	24.6%
・交流会	12.1%	5.0%

※ 発展学習実施校（195校）の内訳

情報学習（36.5%） 福祉・健康学習（33.8%） 環境学習（28.5%） 防災学習（22.6%）
 人権学習（19.7%） 平和学習（11.2%） 国際理解学習（10.6%）

(7) 事前・事後指導における進路学習（キャリア教育含む）の実施

（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

- ・事前指導のみ ……………26.5%
- ・事後指導のみ ……………11.7%
- ・事前指導・事後指導どちらも実施…………61.8%
- ・実施していない …………… 0%

(8) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	47.9%	高等学校と連携した取組の実施	10.3%
---------------	-------	----------------	-------

〔連携した内容〕

- ・地元の高校の農業科学科において、体験活動を実施する。
- ・生徒の作成したハザードマップを近隣の小学校へ配布する。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、「トライやる・ウィーク」で学んだことをまとめ、出身小学校に出向いて小学6年生に向けて発表する。
- ・生徒の出身小学校を訪問し、花壇や運動場等の整備を行う。

(9) 不登校生徒への影響（市立特別支援学校は除く）

- ・1年生の時に不登校の生徒（年間30日以上欠席）のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、228名（全体の13.3%）であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、85名（全日参加生徒の37.3%）の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
R3	356校	44,112名	1,710名	228名	85名	76名
				13.3%	37.3%	33.3%
R2	360校	43,982名	1,529名	416名	132名	105名
				27.2%	31.7%	25.2%
2019 (R1)	359校	43,042名	1,445名	581名	208名	199名
				40.2%	35.8%	34.3%
H30	359校	44,831名	1,198名	507名	194名	176名
				42.3%	38.3%	34.7%
H29	360校	45,633名	1,140名	468名	198名	167名
				41.1%	42.3%	35.7%
H28	359校	46,930名	997名	428名	191名	176名
				42.9%	44.6%	41.1%
H27	346校	47,876名	994名	421名	126名	139名
				42.4%	29.9%	33.0%
H26	346校	48,548名	889名	360名	151名	136名
				40.5%	41.9%	37.8%
H25	347校	49,128名	977名	442名	188名	178名
				45.2%	42.5%	40.3%
H24	348校	49,399名	984名	457名	175名	157名
				46.4%	38.3%	34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

- (1) 実施校数 16 校
 1 学期に実施：1 校（分散型） 2 学期に実施：15 校（継続型 3 校、分散型 12 校）
 ※継続型は 5 日間継続して活動、分散型は、5 日間を分散して活動
- (2) 実施期間 令和 3 年 5 月 25 日～令和 3 年 12 月 14 日
- (3) 参加生徒数 158 名（53 クラス、在籍生徒数 168 名）
- (4) 班数 46 班（1 班平均 3.4 名）
- (5) 指導ボランティア数 159 名（生徒 1.0 名につき 1 名）
- (6) 介助補助員数 25 名（生徒 6.3 名につき 1 名）
- (7) 活動場所数 74 ヲ所
 居住地中学校区内で活動した生徒の割合 5.7%（9 名／158 名）

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
R3	16	53	158	46	74	159	25
R2	18	51	150	36	36	78	17
2019(R1)	18	46	117	91	99	189	34
H30	17	44	130	78	99	304	51
H29	18	57	164	95	112	238	66
H28	17	55	150	120	109	174	96
H27	18	46	135	109	109	234	109
H26	16	45	146	103	182	201	86
H25	17	37	112	58	86	153	51

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
R3	1 班：3.4 名	2.1 名につき 1 ヲ所	1.0 名につき 1 名	6.3 名につき 1 名
R2	1 班：4.2 名	4.2 名につき 1 ヲ所	1.9 名につき 1 名	8.8 名につき 1 名
2019(R1)	1 班：1.3 名	1.2 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	3.4 名につき 1 名
H30	1 班：1.7 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.4 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H29	1 班：1.7 名	1.5 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H28	1 班：1.3 名	1.4 名につき 1 ヲ所	0.9 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H27	1 班：1.2 名	1.2 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H26	1 班：1.4 名	0.8 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.7 名につき 1 名
H25	1 班：1.3 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.2 名につき 1 名

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	R3	R2	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25
① 職場体験活動	45.3%	15.8%	62.9%	55.0%	53.4%	64.2%	58.3%	53.4%	61.5%
② 文化・芸術創作体験活動	16.5%	20.7%	17.4%	10.6%	17.2%	4.9%	5.8%	2.5%	8.9%
③ ボランティア・福祉体験活動	16.3%	39.4%	13.4%	23.9%	9.5%	16.0%	16.9%	19.5%	13.1%
④ 農林水産体験活動	17.4%	22.6%	6.0%	10.2%	14.3%	8.7%	15.2%	12.7%	7.0%
⑤ その他	4.5%	1.5%	0.3%	0.3%	5.6%	6.1%	3.8%	11.9%	9.6%

イ 内容別（令和 3 年度上位 3 の活動内容）

① 販売	15.6%
② スポーツ体育施設	8.8%
② 製造・建築	8.8%

ウ 本年度の特色ある取組

・防災マップづくり	・美化活動	・生け花	・陶芸	・作業所での作業補助
-----------	-------	------	-----	------------

II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）実施状況について

(1) 実施校 159校 44.7% (R2 187校 51.9%)

(2) 参加生徒数 () 内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	5,438名(9)	34.2名
2年生	8,026名(29)	50.5名
3年生	4,744名(14)	29.8名
合計	18,208名(52)	114.5名

(3) 活動内容について () 内は特別支援学校：内数 (複数回答)

活動区分	実施校数	割合	実施回数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	36校(0)	22.6%	43(0)	16.1%
清掃活動やボランティア等を諸団体と連携して行う活動	108校(1)	67.9%	180(1)	67.4%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	33校(4)	20.8%	44(7)	16.5%
合計	※母数は、実施校数		267(8)	100%

(4) 活動の内容例

<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加及び演奏によるコンサート ・清掃活動、クリーンキャンペーン ・資源回収（廃品回収、アルミ缶回収） ・花の寄せ植えづくり ・小学校（例 肝試し大会）との連携事業運営補助 ・地域防災訓練の参加 ・老人クラブの方々とグランドゴルフで交流 ・地域自慢映像大賞応募に向けた取組 ・幼児向け絵本読み聞かせボランティア ・地域イルミネーションづくりの補助
--

(5) 実施時期について () 内は特別支援学校：内数 (複数回答)

	実施校数	割合	実施回数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	144校(5)	90.6%	232(7)	86.9%
夏季休業中に実施	16校(1)	10.1%	22(1)	8.2%
冬季休業中に実施	6校(0)	3.8%	6(0)	2.3%
春季休業中に実施	6校(0)	3.8%	7(0)	2.6%
合計	※母数は、実施校数		267(8)	100%

[資料1] 令和3年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後
アンケート調査の結果（調査実施校数 340校）

- 1 生徒アンケート（回答数 37,089人）
- 2 保護者アンケート※（回答数 9,096人）
- 3 関係者アンケート※（回答数 2,940人）
- 4 教職員アンケート（回答数 2,915人）

※ コロナ禍における代替活動を行った学校へは調査していません。

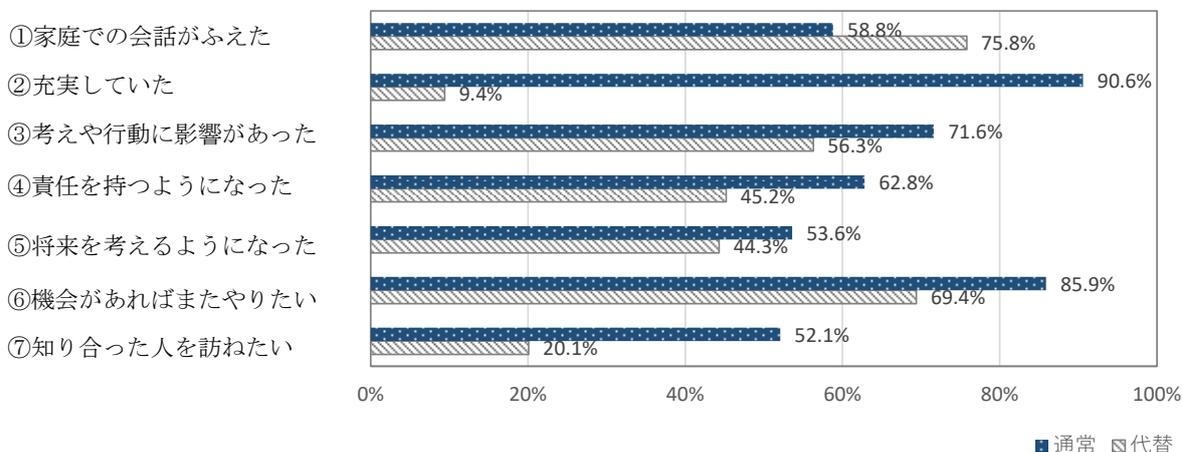


1 生徒アンケート（回答数 37,089人）

※1 通常：例年と同様に事業所において活動した生徒の割合（併用も含む） 代替：コロナ禍における代替活動した生徒の割合

質問項目	R3年度*			R2年度
	全体	通常	代替	
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	72.1%	90.3%	64.9%	58.6%
達成感や自信を感じた	54.9%	68.1%	49.7%	53.9%
コミュニケーションの大切さを感じた	47.9%	70.0%	39.2%	58.7%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	45.6%	66.2%	37.5%	57.9%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた	38.7%	60.8%	30.1%	48.5%
人のために役に立つうれしさを感じた	38.5%	58.9%	30.6%	54.4%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	37.9%	61.1%	28.8%	46.2%
大人の人の優しさを感じた	36.4%	64.7%	25.2%	44.6%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	32.8%	46.8%	27.4%	47.8%

- (設問)
- ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
 - ②自分にとって、「トライやる・ウィーク」の期間は充実していた。
 - ③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
 - ④「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の決めたことに責任を持つようになった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の進路や将来などについて考えるようになった。
 - ⑥「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
 - ⑦「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。

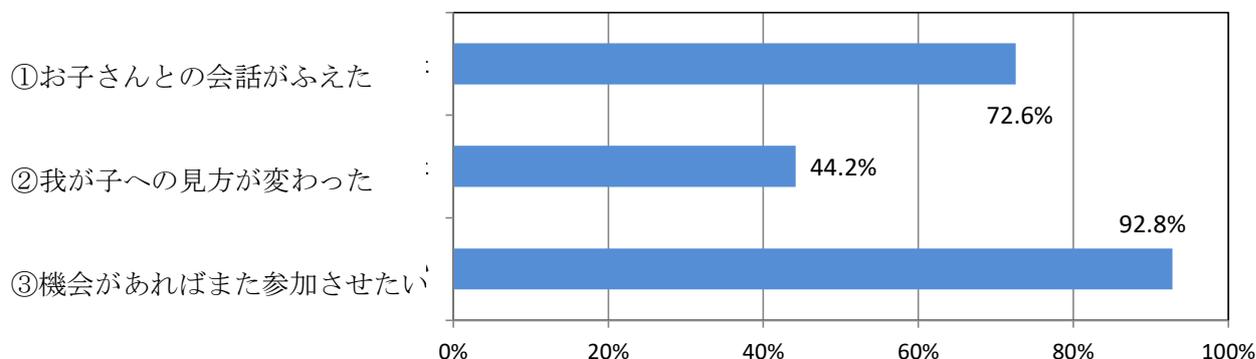


○生徒の感想より

- ・人の役に立つことをしたときの達成感が大きかった。これからも人の役に立つことをしていきたいと思った。
- ・事業所の方は自分の仕事に誇りを持っていた。自分も自信を持って行動したい。
- ・私は緊張して人と接することが苦手だったが、トライやる・ウィークで人との会話が好きになった。
- ・失敗したときに、後悔だけをするのではなく、次どうするかを考えて行動することが大切だと分かり、これから、失敗したときは前向きに考えるようにしたいと思った。
- ・地域のために貢献できたので誇らしい気持ちになった。また自分の住む街に愛着を持つことができた。
- ・清掃活動のとき、地域の方からたくさん声をかけてもらい、地域の方に支えてもらっているなど、改めて感じた。地域のためにできることを見つけていきたいと思う。

2 保護者アンケート（回答数 9,096人）（※事業所において活動した学校のみ）

（設問） ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
②「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
③「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

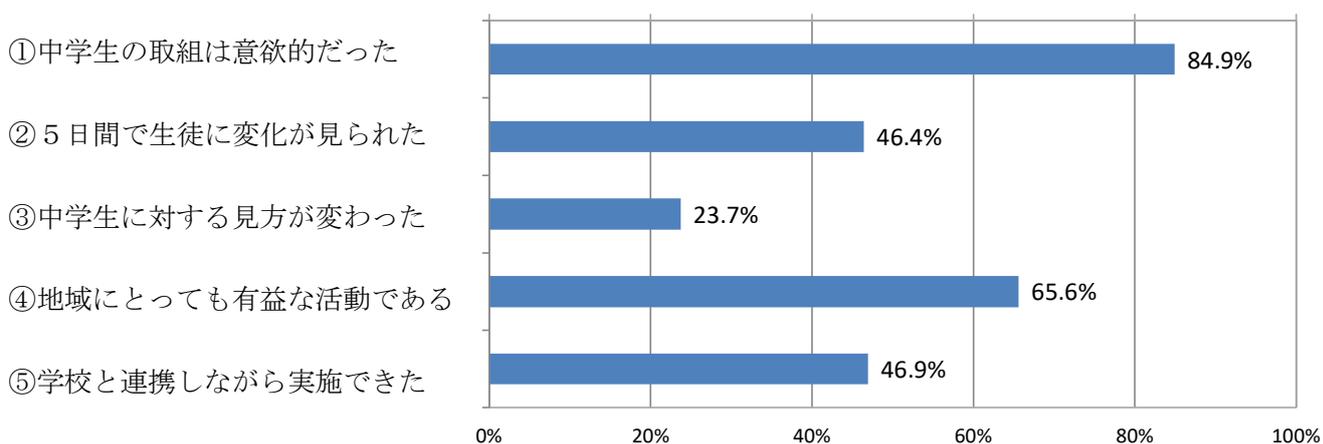


○保護者の感想より

- ・事業所に通う中で、知らない方と会話したり、大勢の前で自己紹介をしたりする機会があり、少し自分の殻を破れたのではないかと感じた。
- ・先生がいない中、自分達で考えて行動しなければいけないという状況で責任感ができたと思う。社会に役立つ体験ができたようでよかった。
- ・配達先で出会った方々に「トライやるの子らやな」「頑張りや」と声をたくさんかけていただいたと聞いた。「トライやる・ウィーク」の事業が周知されており、また関わっていただいた方々が子ども達に温かく接していただいたことをとてもありがたく思った。
- ・体験を通して、将来の夢が明確になったように思う。それに向けて、勉強に取り組む意欲も変化しつつある。
- ・お店の人やお客様の立場になって物事を考えている姿に成長を感じた。
- ・たとえ3日間でも職場を体験できたことで、たくさんを感じ、考えたと思う。中止になるのと3日間で体験したのとではとても大きな差があると思う。

3 関係者アンケート（回答数 2,940人）（※事業所において活動した学校のみ）

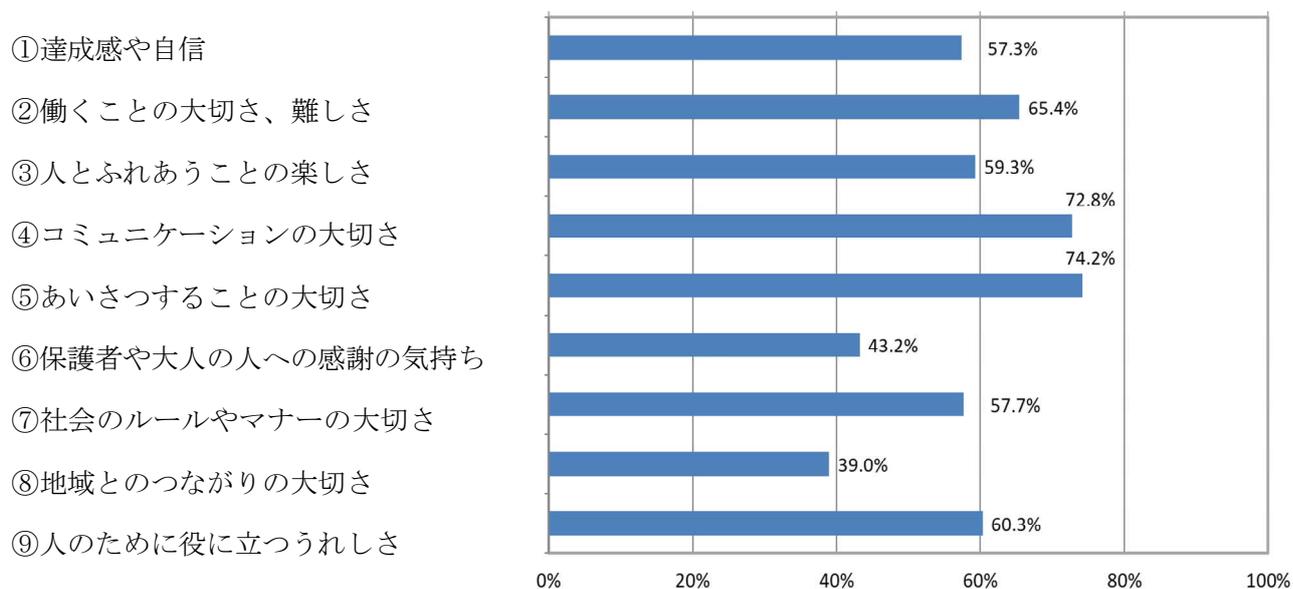
- （設問）①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
②「トライやる・ウィーク」の期間で生徒に変化が見られた。
③活動に関わることで中学生に対する見方が変わった。
④「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
⑤学校と連携しながら実施できた。



○ 指導ボランティアの感想より

- ・「トライやる・ウィーク」の受け入れは、私たち社会人にとっても自らの仕事を見つめ直す大変よい機会だと考えている。
- ・いろいろな行事が中止になる中、「トライやる・ウィーク」で何か得るものがあればうれしい。
- ・活動を通して社会の一員であることの実感や達成感、充実感を得られて素晴らしい取組だと思う。
- ・大人とは違い、物事をわかりやすく説明する「伝える、伝え方」を考えるよい機会だった。店においても新人スタッフの教育に今後役立てさせてもらいたい。
- ・将来の生き方によい影響を与える活動として、受け入れる方もやりがいを感じた。
- ・生徒に地域への愛着心が生まれ、この地域で働きたいと思ってくれる生徒が一人でも増えればと思う。
- ・コロナ禍だが、実施できてよかった。生徒達の自発的な動きから我々も元気がもらえてよかった。将来が楽しみだ。
- ・「トライやる・ウィーク」を通してできたつながりを、今後も何らかの形で継続性を持ちたい。放課後、事業所へ立ち寄るなどでもよいので、社会とのつながりを、「トライやる・ウィーク」だけで終わらせるのではなく、次につながる何らかのきっかけにしたい。
- ・受入れ側も大変だが、4日～5日することで、生徒も視野が広がると思う。
- ・生徒にとって貴重な体験となるのは間違いないが、それまでの準備や活動後のフォローはとても大変な作業である。

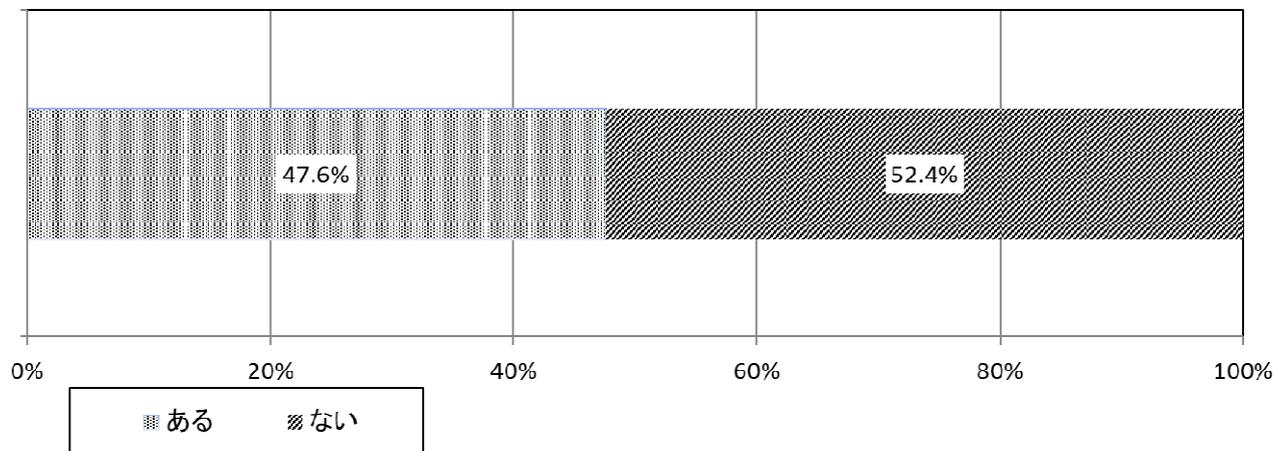
(設問) 受入先での社会体験において、生徒に身に付けてほしい力。



○ 身に付けてほしい力 (こと) (その他)

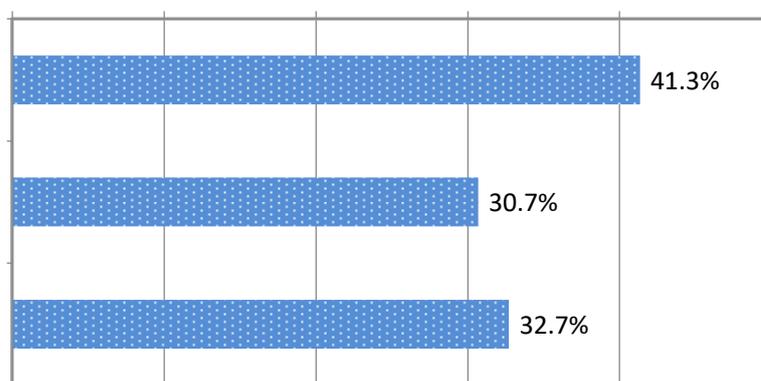
- ・何か1つでも自分自身の自信となることに気付いてもらったり、将来への夢をもってもらったりするとうれしい。
- ・育ててもらってきたこと、大切にされてきたということ、何より自分は大切な存在であるということを感じてほしい。
- ・地域の中にいる多様な人と出会ってほしい。
- ・普段使っているお店を逆の立場で見ることで、物の見方、人の動きを知ることができる。また、相手のことを思いやる気持ちが生まれると思う。
- ・地域にはすばらしい物 (宝) があることに気付いてほしい。
- ・人と接する楽しさ、対話することの大切さ、一緒に活動する仲間や職場の人とのコミュニケーションの大切さを感じてほしい。

(設問) 「トライやる・ウィーク」以外の学校や生徒とのつながりがありますか。



【つながりの内容】

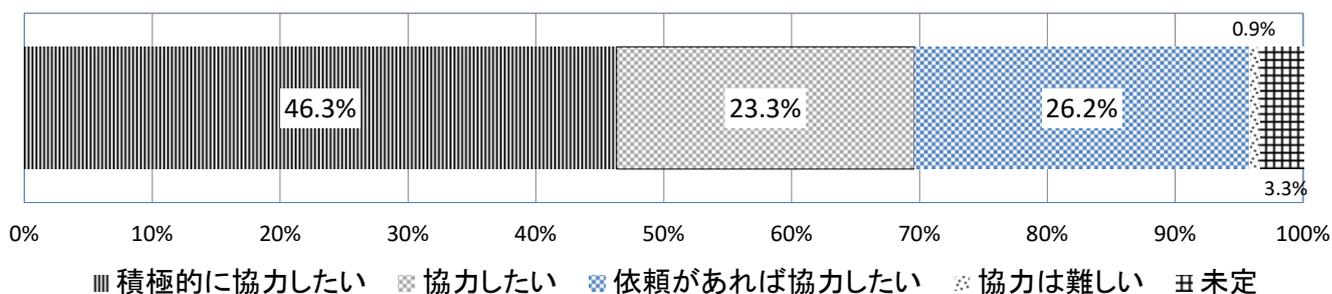
①あいさつや会話



②学校の行事等への参加

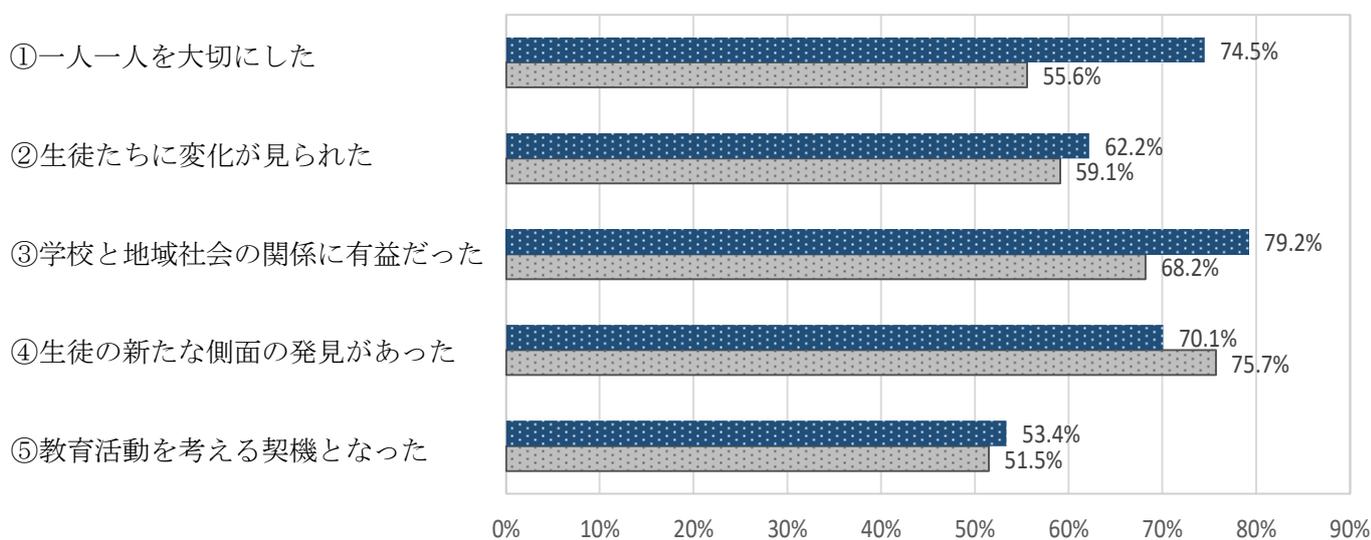
③事業所の行事等への生徒の参加

(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いしますか。



4 教職員アンケート（回答数 2,915人）

- （設問）
- ①一人一人を大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
 - ②「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
 - ③「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
 - ④「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。



○ 教職員の感想より

■通常 ■代替

- ・様々な方に動いていただき、規模は縮小したけれども、実施できてよかった。どのような形であっても地域との関わりがあればよいと思った。
- ・コロナ禍の中、多くの行事が中止になっていくときに、5日間実施することができ、多くの生徒の笑顔を見ることができたのは大変よかった。
- ・今年度は、実施内容を変更して行ったが、変更しただけに、これまでの5日間実施という意義を再認識することができた。
- ・地域で挨拶を丁寧にする生徒が増えた。「トライやる・ウィーク」が終わり、登校したときに「もっと活動を続けたかった」と話している姿を見て、地域の受け入れ体制も含め、生徒を大切にしたい活動ができていると感じた。
- ・今後も価値ある活動として継続させていくためには、事業の経緯や目的を生徒・家庭・事業所としっかりと共有することが必要であると感じる。
- ・従来は安易に事業所に生徒を預けてお任せすることが多かったが、事業所での活動を行うにしても、学校内で活動をするにしても、地域とつながることを大切にしたいと思う。
- ・「トライやる・ウィーク」をマンネリ化させないためにも、今後も事業所や地域の方に協力していただけるように、「トライやる・ウィーク」の必要性や中学校の教育活動について丁寧に説明する必要があると感じた。
- ・校区推進委員会が機能していないため、教員がその役割を担ってしまっており、負担が大きくなっている。

[資料2] 令和3年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校、市立義務教育学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校関係	P T A関係	地域団体代表等	合 計
5.2名	4.3名	4.9名	14.4名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能している	概ねできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計
16.8%	50.0%	19.7%	13.5%	100%

4 校区推進委員会が行っている活動例

・保護者、地域への啓発・協力依頼	・・・	62.4%
・受入先の開拓	・・・	52.6%
・受入先の検討	・・・	49.4%
・生徒の活動についての検討	・・・	48.5%
・巡回訪問	・・・	35.3%
・事前・事後指導における支援	・・・	32.1%
・アンケート・まとめ	・・・	23.8%
・取材	・・・	14.1%